

# 全般季節予報支援資料 1か月予報

2025年10月30日

予報期間: 11月1日～11月30日

この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

## 特に注意を要する事項

沖縄・奄美では、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。

## 出現の可能性が最も大きい天候

北日本日本海側では、平年と同様に曇りや雨または雪の日が多いでしょう。

北日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

東・西日本日本海側では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

東日本太平洋側では、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

西日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

沖縄・奄美では、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

# 全般1か月予報(確率)

| 1か月   |              | 気温(%)    | 降水量(%)               | 日照時間(%)              | 降雪量(%) |
|-------|--------------|----------|----------------------|----------------------|--------|
|       |              | 低 並 高    | 少 並 多                | 少 並 多                | 少 並 多  |
| 北日本   | 日本海側<br>太平洋側 | 20:40:40 | 20:40:40<br>10:30:60 | 30:30:40<br>30:40:30 |        |
| 東日本   | 日本海側<br>太平洋側 | 10:30:60 | 20:40:40<br>20:30:50 | 40:30:30<br>50:30:20 |        |
| 西日本   | 日本海側<br>太平洋側 | 10:30:60 | 20:40:40<br>20:30:50 | 40:30:30<br>40:40:20 |        |
| 沖縄・奄美 |              | 10:10:80 | 20:40:40             | 40:40:20             |        |

| 気温    | 1週目(%)   | 2週目(%)   | 3～4週目(%) |
|-------|----------|----------|----------|
|       | 低 並 高    | 低 並 高    | 低 並 高    |
| 北日本   | 20:30:50 | 30:50:20 | 20:40:40 |
| 東日本   | 20:40:40 | 10:40:50 | 10:30:60 |
| 西日本   | 20:40:40 | 10:20:70 | 10:30:60 |
| 沖縄・奄美 | 10:20:70 | 10:10:80 | 10:30:60 |

# 全般1か月予報のポイント

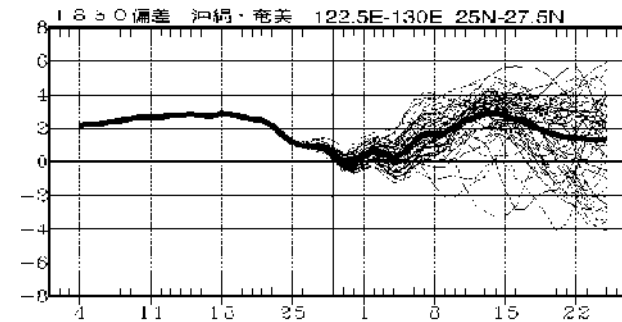
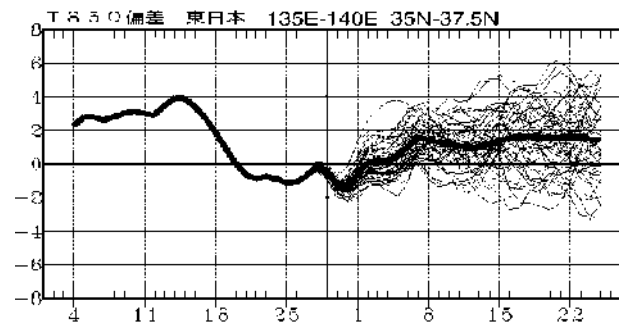
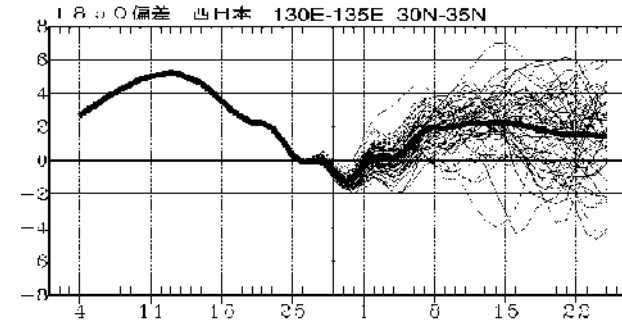
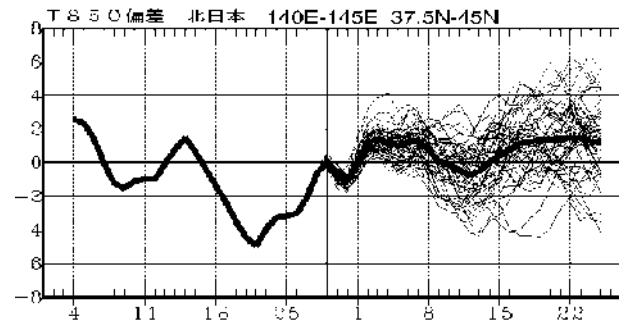
- ・向こう1か月の気温は、暖かい空気に覆われやすいため、東・西日本、沖縄・奄美では高く、北日本では平年並か高いでしょう。沖縄・奄美では期間の前半はかなり高くなる見込みです。
- ・低気圧や前線及び湿った空気の影響を受けやすい時期があるため、向こう1か月の降水量は、北・東・西日本太平洋側では多く、北・東・西日本日本海側、沖縄・奄美では平年並か多いでしょう。また、向こう1か月の日照時間は、東日本太平洋側では少なく、西日本太平洋側と沖縄・奄美では平年並か少ないでしょう。

北・東・西日本では、10月21日に発表した3か月予報に比べ、1週目に低気圧や前線の影響が大きい見通しとなったため、多雨の可能性が大きくなりました。

# 各週における天候のポイント(気温)

|                     | 1週目(11/1～11/7)                             | 2週目(11/8～11/14)                                                                                        | 3～4週目(11/15～11/28)                                   |
|---------------------|--------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|
| 想定される<br>天候<br>(気温) | 北日本と沖縄・奄美では高く、東・西日本では平年並か高いでしょう。           | 北日本では平年並でしょう。東日本以西では高く、沖縄・奄美でかなり高くなる見込み。                                                               | 北日本では平年並か高く、東・西日本、沖縄・奄美では高いでしょう。                     |
| 根拠                  | 西谷傾向で、暖かく湿った空気の影響を受けやすい。<br>(P.12, P.13参照) | オホーツク海でトラフが深まり、トラフの南側の北日本に下層寒気が入る(日本海の海面水温が高く、地上気温の低下は抑えられる)。その他の地方は引き続き、暖かい空気に覆われる。<br>(P.12, P.13参照) | 日本付近で偏西風が北偏して流れて、暖かい空気に覆われやすい。季節進行が遅い。(P.12, P.13参照) |

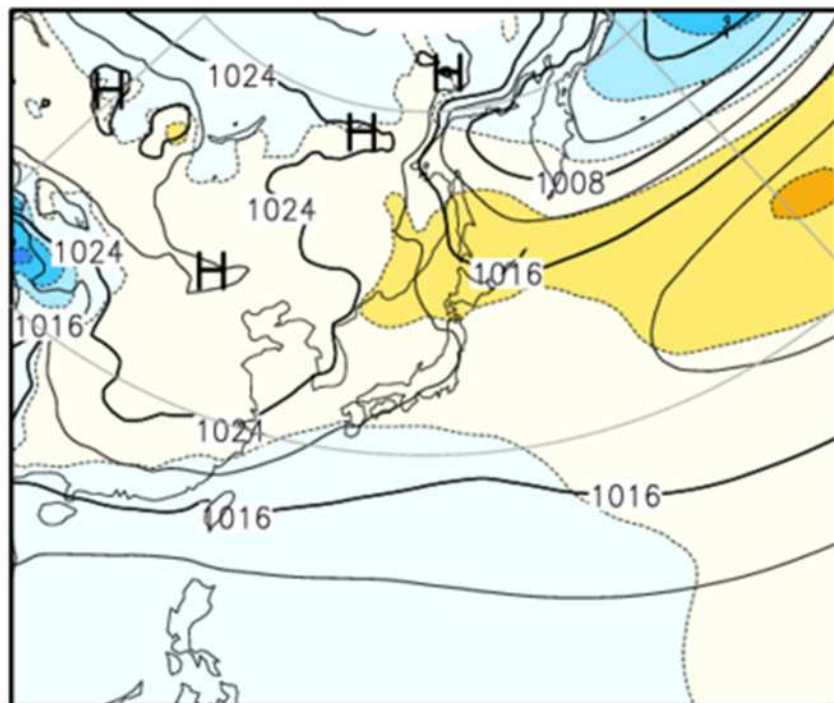
## 850hPa気温 偏差時系列



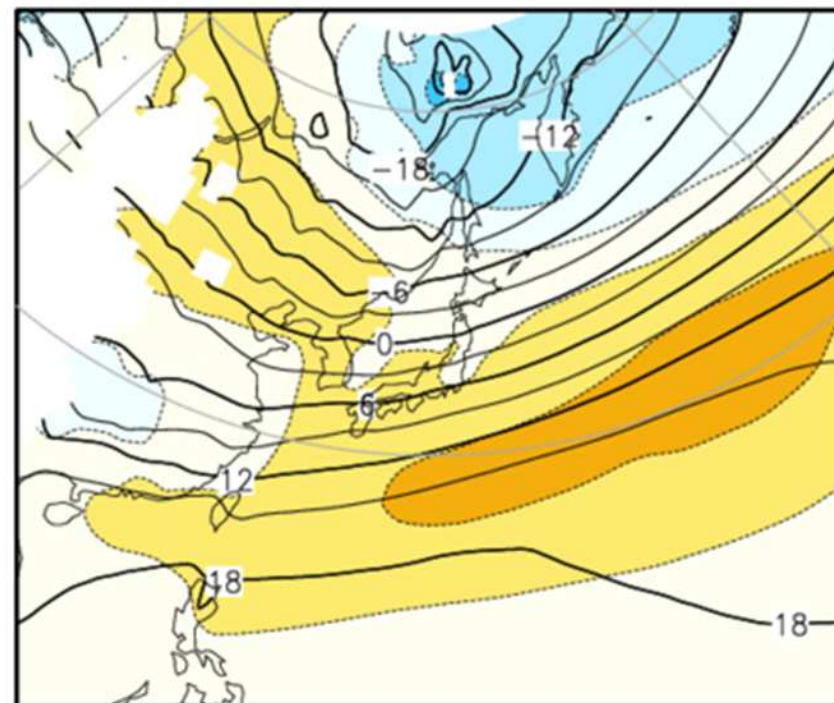
# 各週における天候のポイント(天気)

|                     | 1週目(11/1～11/7)                                                                                                                                                                                                                                                            | 2週目(11/8～11/14)                                                                                                                                                                                                                                                                    | 3～4週目(11/15～11/28)                                                                                                                                                                                                                                                           |
|---------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 想定される<br>天候<br>(天気) | <p>北日本日本海側では、平年と同様に曇りや雨または雪の日が多いでしょう。</p> <p>北日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。</p> <p>東日本日本海側では、低気圧や前線の影響で、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。</p> <p>東日本太平洋側では、低気圧や前線の影響で、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。</p> <p>西日本日本海側と沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。</p> <p>西日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。</p> | <p>北日本日本海側では、平年と同様に曇りや雨または雪の日が多いでしょう。</p> <p>北日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。</p> <p>東・西日本日本海側では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。</p> <p>東日本太平洋側では、低気圧や前線の影響で、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。</p> <p>西日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わりますが、低気圧や前線の影響で平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。</p> <p>沖縄・奄美では、前線や湿った空気の影響で、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。</p> | <p>北日本日本海側では、寒気の影響を受けにくく、平年に比べ曇りや雨または雪の日が少ないでしょう。</p> <p>北日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。</p> <p>東日本日本海側では、寒気の影響を受けにくく、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。</p> <p>東日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。</p> <p>西日本日本海側と沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。</p> <p>西日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。</p> |
| 根拠                  | 北・東・西日本では、上空の西谷と南からの暖かく湿った空気の影響を受けやすい(降水量が多くなる)。(P.10-P.13参照)                                                                                                                                                                                                             | 東・西日本太平洋側、沖縄・奄美では、南からの暖かく湿った空気の影響を受けやすい。(P.10-P.13参照)                                                                                                                                                                                                                              | 冬型の気圧配置が現れにくく、北・東日本日本海側では、寒気の影響が弱い。(P.10-P.13参照)                                                                                                                                                                                                                             |

## 海面気圧(1か月)



## 上空約1500mの気温(1か月)

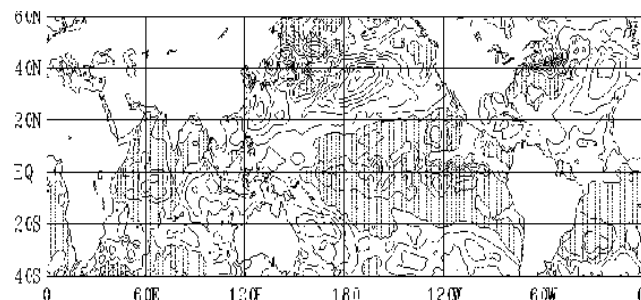


1か月平均の海面気圧(左図)は、日本のはるか東で高気圧が強く、北日本から東海上にかけて平年より気圧が高くなっており、日本付近は冬型の気圧配置となりにくいと予測されています。一方、日本の南では、平年より気圧が低く予測されています。このため、北・東日本日本海側では寒気の影響を受けにくく、東・西日本太平洋側、沖縄・奄美では、低気圧や前線、湿った空気の影響を受けやすい時期があるでしょう。

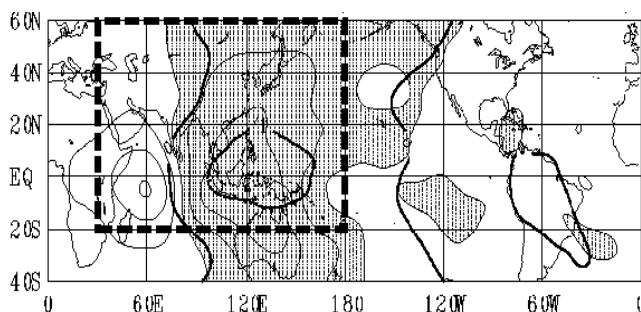
上空約1500mの気温(右図)は、全国的に暖かい空気に覆われやすく、平年より高く予測されています。

# 予報資料の解釈(1か月) 熱帯循環場

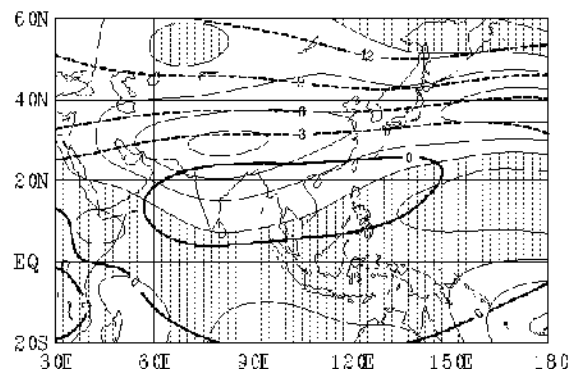
## SST偏差



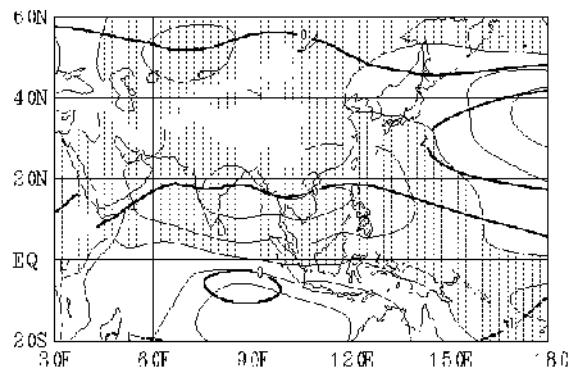
## 200hPa速度ポテンシャル



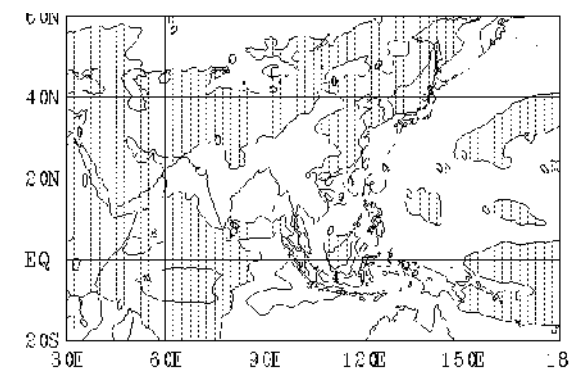
## 200hPa流線関数



## 850hPa流線関数



## 降水量



SST偏差は、ラニーニャ現象的かつ負のインド洋ダイポールモード的な分布。また、日本近海で正偏差。

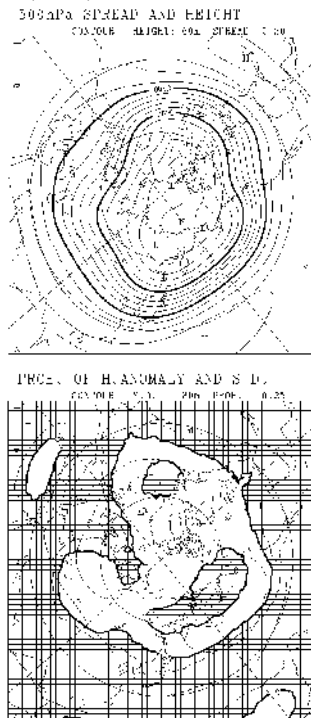
200hPa速度ポテンシャルは、インドネシア付近を中心に発散偏差、アフリカからインド洋西部にかけて収束偏差。SSTと熱帯季節内変動の影響。

200hPa流線関数は、インド北部を中心に高気圧性循環偏差で熱帯の対流活動の影響。また、日本の東を中心に高気圧性循環偏差で、熱帯の対流活動に加え、ロスビー波東伝播の影響も。

850hPa流線関数は、熱帯の対流活動に関連し、アラビア海からフィリピン東方にかけて低気圧性循環偏差、日本の南東海上で高気圧性循環偏差で、沖縄・奄美、東・西日本太平洋側中心に暖かく湿った空気が流れ込みやすい。

降水量は、インド付近から東南アジアの広い範囲で多雨偏差。フィリピン北方海上から南シナ海で特に多い。

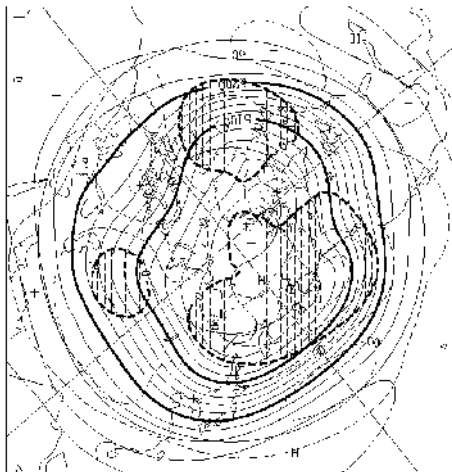
# 予報資料の解釈(1か月) 北半球循環場



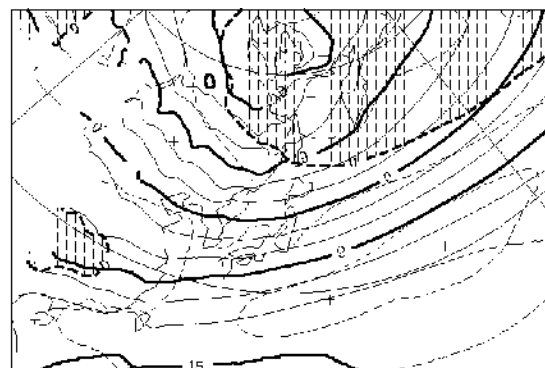
500hPa高度は、大西洋から西シベリアにかけて波列状の偏差パターンが卓越するが、極東域ではオホーツク海でトラフが深く負偏差、日本付近から日本のはるか東海上にかけては帯状に正偏差。偏差は日本の東海上で大きく、日本付近は西谷傾向。帯状の正偏差の形成には平年より北側で活発な移動性じょう乱の影響もあると考えられる。日本付近は正の高偏差確率50%以上の領域に覆われる。

850hPa気温は、日本の南東を中心に正偏差で、日本付近も正偏差。海面気圧は、上空のトラフに対応して、オホーツク海からベーリング海に低気圧があるが西側は弱い。一方、日本のはるか東を中心に高気圧が強く、北日本から東海上にかけて気圧が高くなっている。日本付近は冬型の気圧配置となりにくく、日本海側では寒気の影響を受けにくい。一方、日本の南は負偏差で、東・西日本太平洋側、沖縄・奄美は、低気圧や前線、湿った空気の影響を受けやすい。

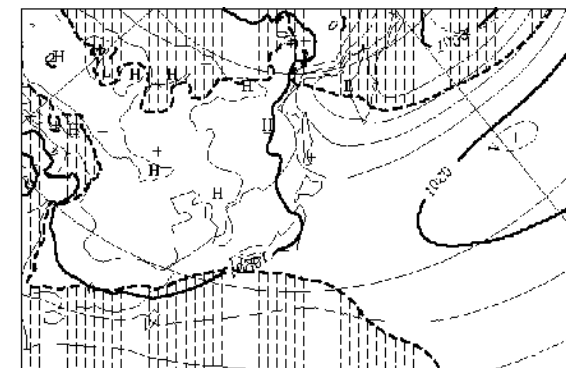
500hPa高度



850hPa気温

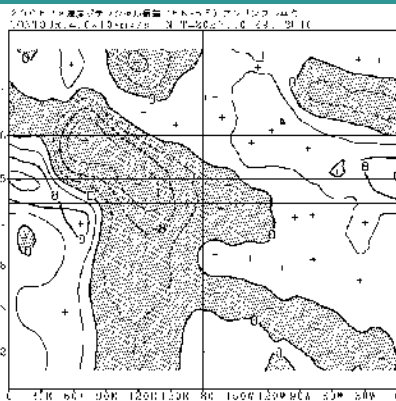


海面気圧



# 予報資料の解釈(各週) 熱帯の対流活動

## 200hPa速度ポテンシャル偏差時系列

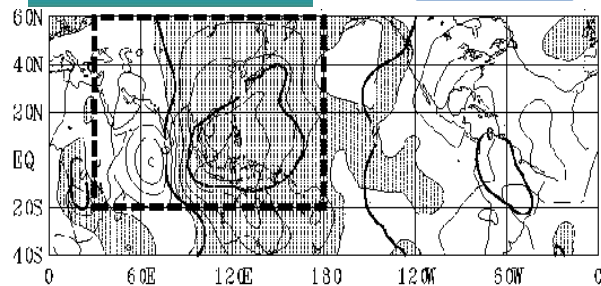


200hPa速度ポテンシャルは、1週目と期間後半に、熱帯季節内変動に伴う発散偏差域がインドネシア付近から中部太平洋に東進するが、インドネシア付近では発散偏差(対流活発な状態)が続く。

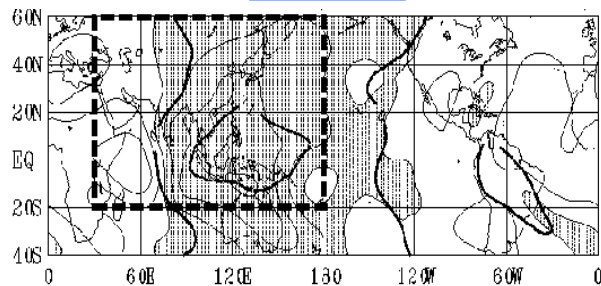
降水量は、1週目はインドシナ半島からフィリピン東方海上で強い多雨偏差。2週目には、これらの多雨偏差は北西進し、ベンガル湾とフィリピン北方で多雨偏差。夏の熱帯季節内変動の特徴が残る。3～4週目は、東南アジア全体で多雨偏差となる。インド洋赤道域東部は期間を通して、多雨偏差。

## 200hPa速度ポテンシャル

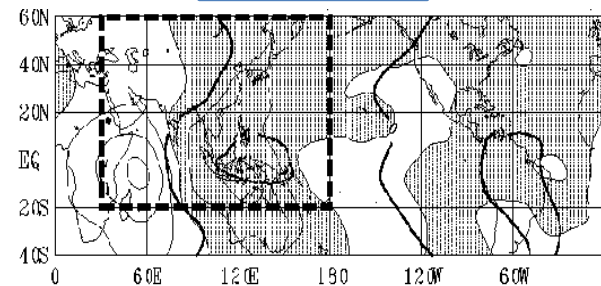
1週目



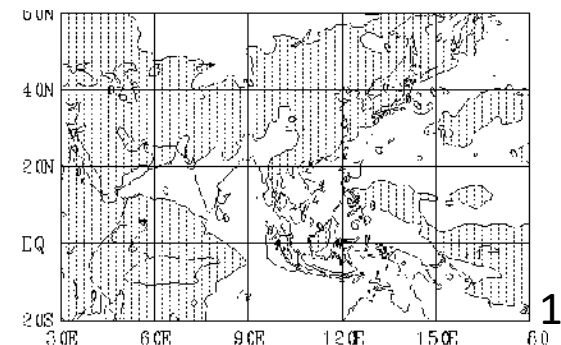
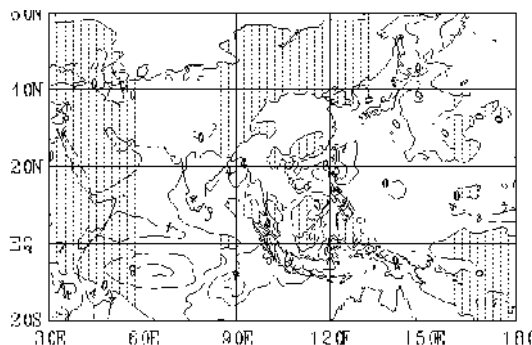
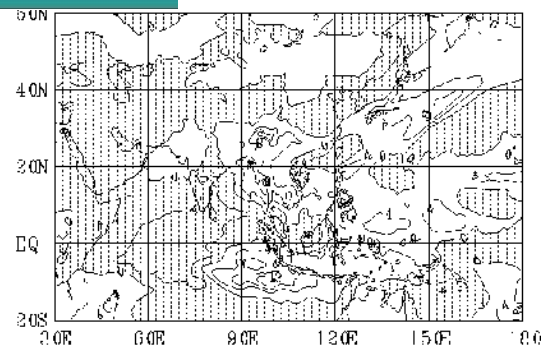
2週目



3～4週目



## 降水量



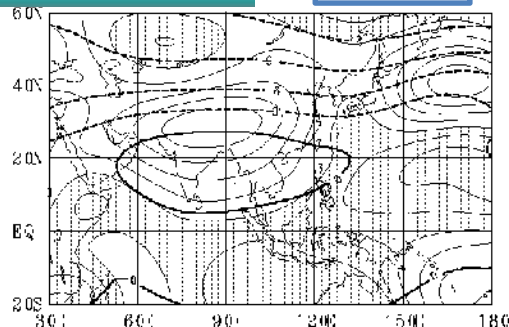
# 予報資料の解釈(各週) 熱帯循環場

200hPa流線関数は、1週目は亜熱帯ジェット気流沿いのロスビー波東伝播やインドシナ半島付近の対流活動の影響により、インドの北と日本の東海上で高気圧性循環偏差、東シナ海付近で低気圧性循環偏差で日本付近は西谷。2週目は波東伝播は弱まるが、フィリピン北方海上の対流活動の影響で華中から日本付近にかけて高気圧性循環偏差となる。3～4週目はインドから日本の東海上にかけて広く高気圧性循環偏差が持続する。

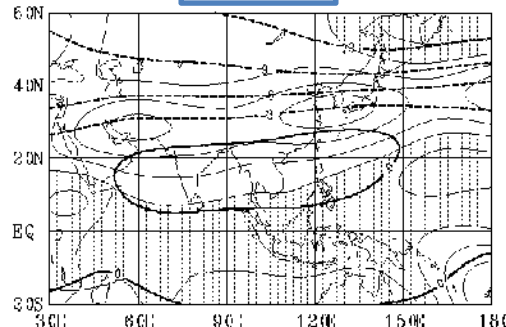
850hPa流線関数は、フィリピン東方海上は期間を通して、低気圧性循環偏差、その北方の本州付近から東海上にかけて高気圧性循環偏差が持続し、東・西日本太平洋側、沖縄・奄美を中心に南から暖かく湿った空気が流れ込みやすい。

## 200hPa流線関数

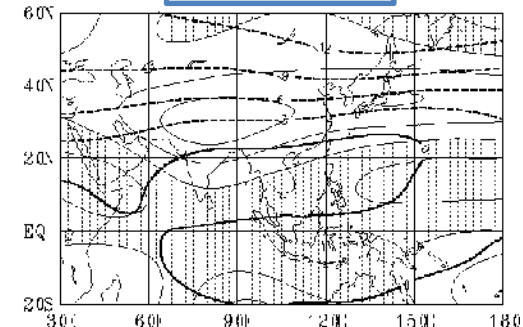
1週目



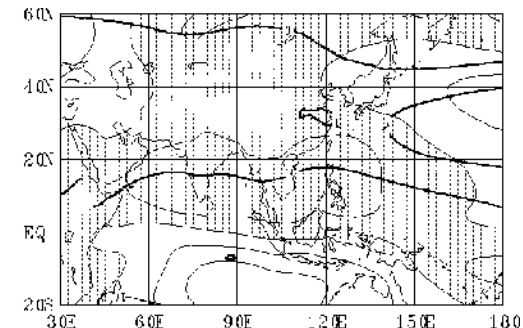
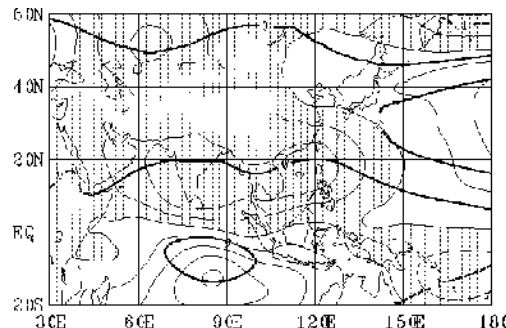
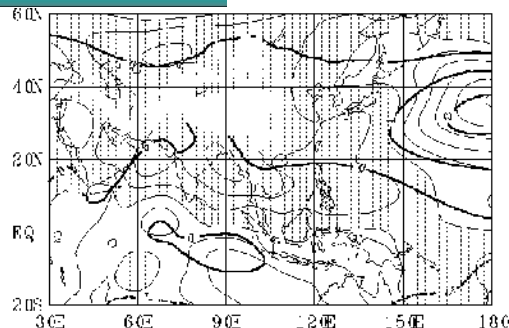
2週目



3～4週目



## 850hPa流線関数

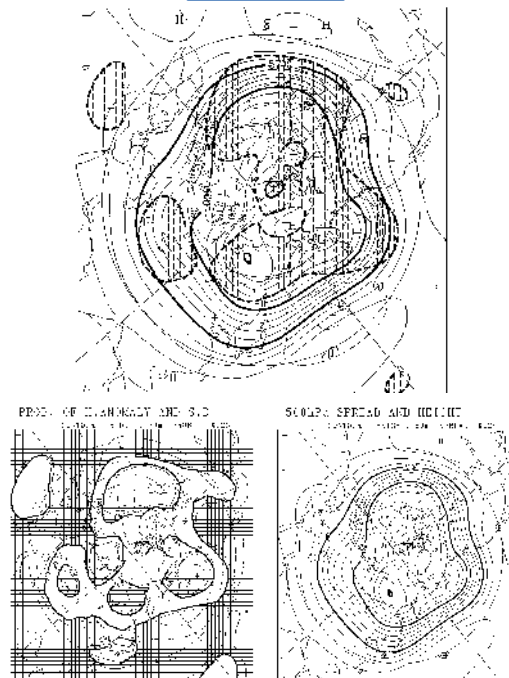


# 予報資料の解釈(各週) 北半球循環場

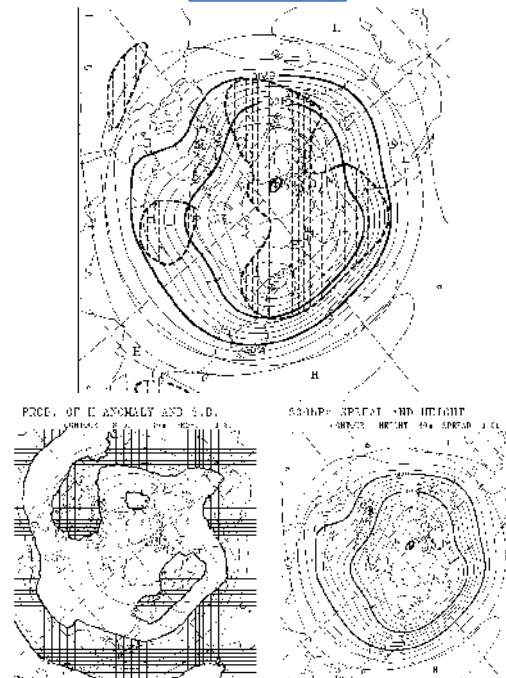
500hPa高度は、1週目は亜熱帯ジェット気流沿いの波束伝播の影響により、日本のはるか東を中心に正偏差で、日本付近は西谷。2週目は日本付近で、フィリピン北方海上での対流活動の影響もあり、正偏差が強まる。一方、オホーツク海でトラフが深まり、北日本には寒気が入る。3～4週目には、日本付近は中緯度帯の帯状の正偏差域に覆われるが、日本の東海上でスプレッドが大きいことから、全体に高温傾向を弱めて考える。

## 500hPa高度

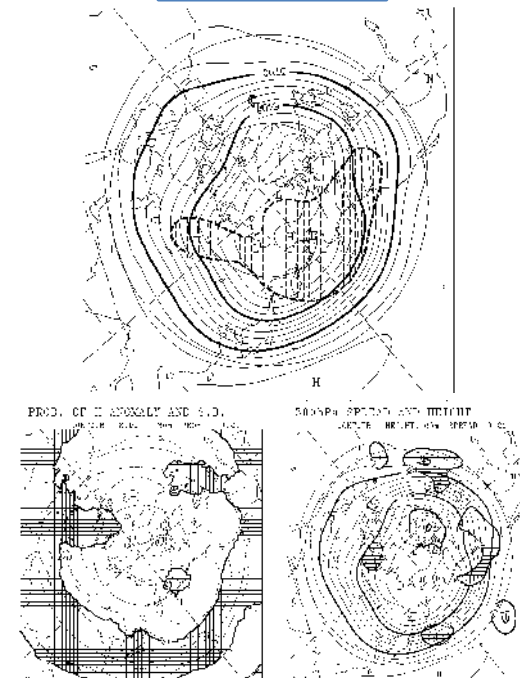
### 1週目



### 2週目



### 3～4週目



## 予報資料の解釈(各週) 日本周辺循環場

850hPa気温は、1週目は北・東日本は正偏差に覆われ、西日本から沖縄・奄美では平年程度。2週目にはオホーツク海でトラフが深まることに対応し、北日本では負偏差となる一方、東日本以西は正偏差に覆われる。日本付近では、南北の温度傾度が大きくなる。3～4週目は、再び全国的に正偏差となる。

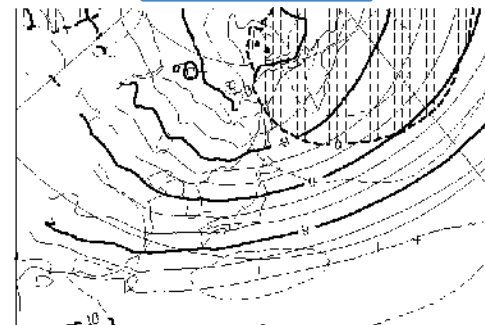
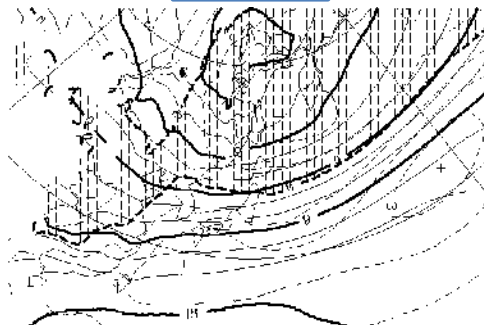
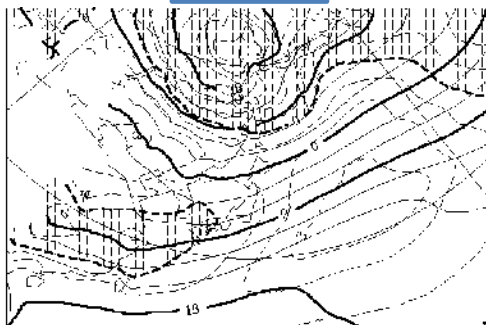
海面気圧は、1週目は本州南岸から南海上で負偏差で、本州付近は気圧の谷となり、全国的に低気圧や前線の影響を受けやすい。2週目は、大陸の高気圧が張り出し、北日本中心に冬型の気圧配置となり、寒気の影響を受ける時期がある。期間を通して、日本の南は負偏差で、東・西日本太平洋側、沖縄・奄美を中心に低気圧や前線、湿った空気の影響を受けやすい。

1週目

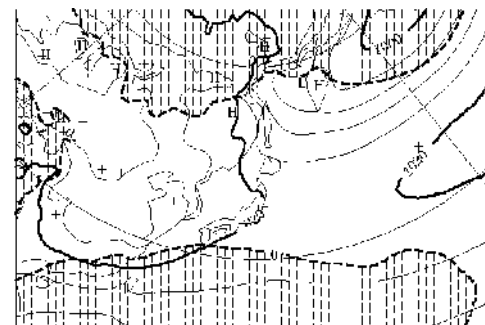
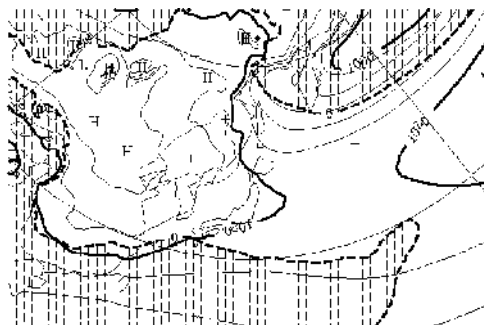
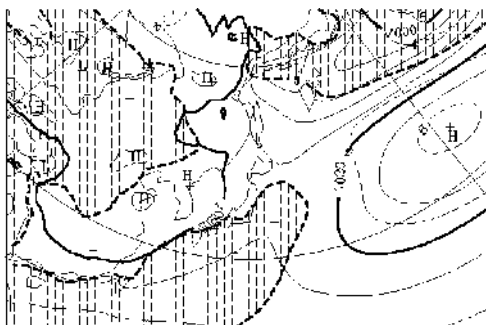
2週目

3～4週目

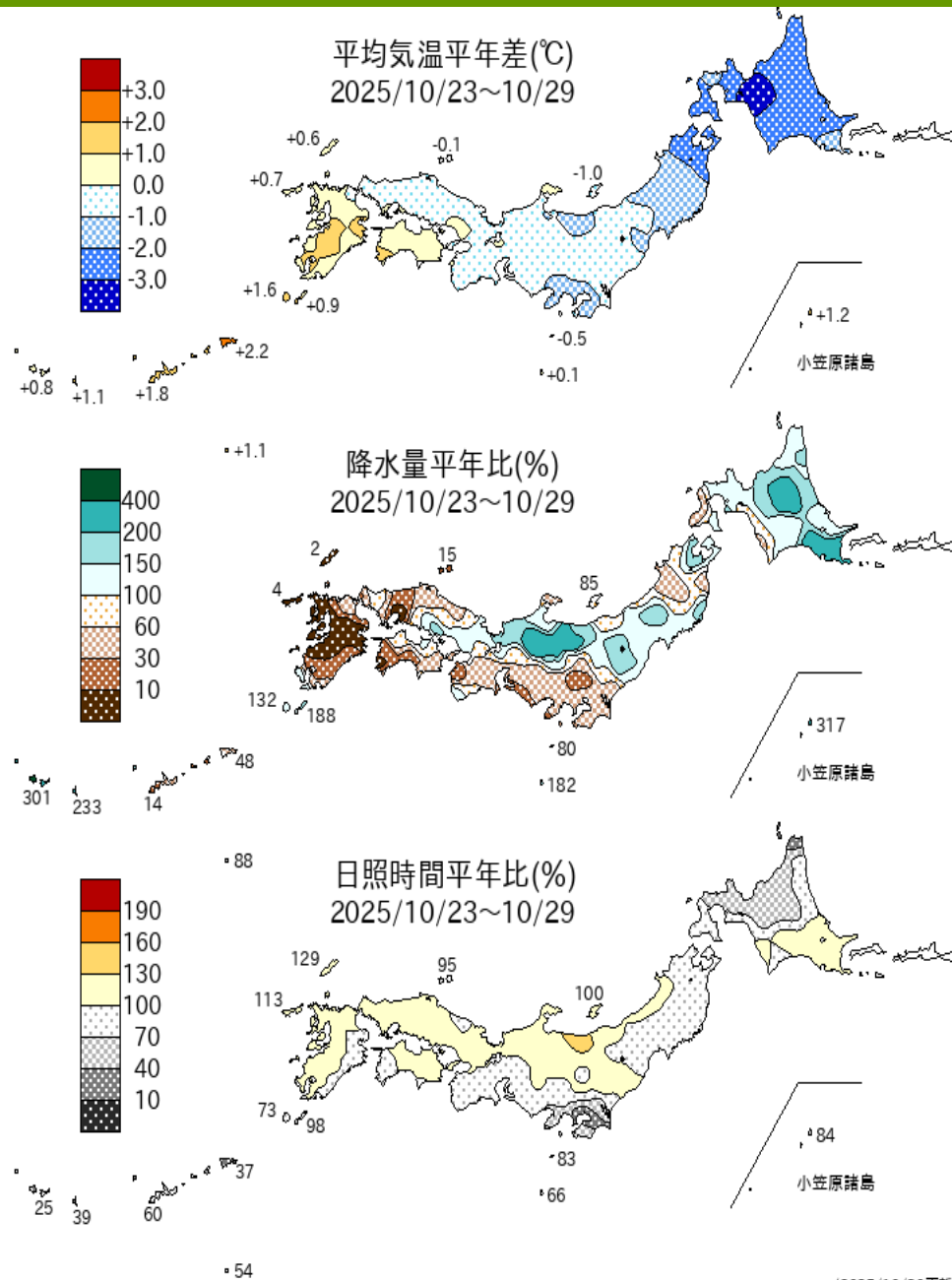
850hPa気温



海面気圧



## (参考)最近1週間の天候経過



最近1週間(10月23日～10月29日)は、期間のはじめは前線が日本の南海上に停滞した一方、北日本では移動性の高気圧に覆われました。その後、26日に本州付近を低気圧が通過した後、北日本中心に冬型の気圧配置が強まりました。降水量は低気圧や寒気の影響を受けた北日本や東日本日本海側と、前線の影響を受けた沖縄地方の一部などで平年を上回りました。また、日照時間は寒気の影響を受けた北海道日本海側や、前線の影響を受けた東日本太平洋側と沖縄・奄美で平年を下回りました。西日本では低気圧や前線の影響は小さく、降水量は平年を下回り、日照時間は平年を上回った所が多くなりました。気温は、寒気の影響を受けやすかった北日本から東日本中心に平年を下回りましたが、四国地方・九州地方・沖縄・奄美では暖かな空気に覆われたため、平年を上回りました。